

メリー・アーティスト・カンパニー

第5回定期公演

NAGAMI Takayuki & MAC

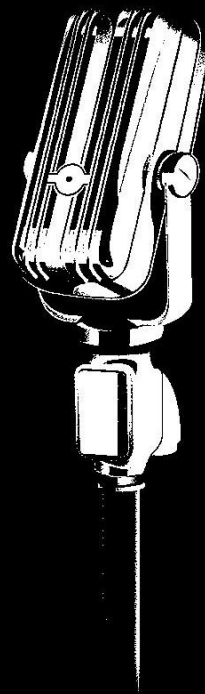
ニュー・ミュージカル

BOBBY

～ 20世紀を駆け抜けた男 ～

キャスト

永見 隆希
塚本 伸彦
宇佐見祐樹
志乃舞 優
岩井 和宏
米丸 史朗
真井 聖美
沼川 朋子
祐植万梨恵
白次 恭子
内田 有香
安藤 麻実
伊藤 隆洋
政所 和行
野々山 好
森本 優美
赤尾 実祐
高口 千佳
岩井 千秋
森本 陽美
高口 花梨
宮川日向里
内山 葵
加藤 占空
塚井 俊輔
山下 暁



スタッフ

演出監修: 志賀隆善
演出: 塚本伸彦
音楽監督: 塚本伸彦
タクト指揮: 宇佐見祐樹
舞台統括: 志賀隆善
美術: 塚本伸彦
舞台美術: 長尾あきら
衣裳: 下村あゆ子
ヘアメイク: アトリエUTA
舞台監督: 井上知也
照明: 坂本晃彦
音響: 佐藤雅之
制作助手: 安藤麻実
音楽制作: 志賀隆善
制作協力: 志賀隆善

演奏

オーケストラ: 音楽院楽
C.U.G. シェスオーケストラ

2011

11/26(土) 18:00 27(日) 16:30

名古屋市芸術創造センター

名古屋市東区葵1-3-27 (052)931-1811

開場は各開演時刻の30分前を予定しております。

■主 催 メリー・アーティスト・カンパニー
■共 催 芸術文化振興機構アーツ・アクティヴェイター/スマイル・ミュージカル・アカデミー ■協力 C.U.G. シェスオーケストラ
■後 援 中日新聞社/東海テレビ放送/東海ラジオ放送/愛知県/名古屋市/愛知県教育委員会/名古屋市教育委員会
■制 作 ザ・ディライトフル・カンパニー/オフィス:Dスマイル ■制作協力 マネージメント・プロ

チケット 全自由席 前売券/4,000円 取り扱い チケットぴあ(Pコード416-144)*マーク・スランク・マフィン・フランス*他
当日券/5,000円 エスプレイガイド/ナディアパークプレイガイド/マネージメント・プロ
オフィス:Dスマイル



お問合せ マネージメント・プロ (052)735-3151 / オフィス:Dスマイル (0568)34-8078

ニュー・ミュージカル 『BOBBY』 11月26日(土) 18:00
11月27日(日) 16:30

メリー・アーティスト・カンパニーの季節

永見隆幸率いるメリー・アーティスト・カンパニーが、今年もまた心弾むニュー・ミュージカルを皆様にお届けする季節がやって参りました。

題して“BOBBY”。37歳の若さで逝った実在のカリスマ的天才エンターテイナー“ボビー・ダーリン”に材を取り、思い通りにはゆかない現実突き当たりながら、夢に向かって生きる人々の姿が、彼の名曲にのせて描き出されます。

芸術批評 演劇評論家 馬場 駿吉

主演の名テナー永見隆幸を始め、当カンパニーの公演に参加するアーティストたちは、みな練達のヴォーカリストであり、ダンサーです。今回もまた皆様をストーリーに巻き込み、人生の哀歓を感じさせてくれるはずですよ。

芸術とエンターテインメントの両立を目指す、こうした高水準のミュージカルが当地域から立ち上り、発信されるようになったことを皆様とともに喜び、楽しみたいと思います。

永見隆幸 & MAC『スウィング・ライヴリー』

文芸評論家 清水 信

メリー・アーティスト・カンパニーの第4回定期公演であるジャズ・ミュージカル『スウィング・ライヴリー』を楽しく観た。2010年11月14日夜、名古屋市芸術創造センターである。

前回の『LOVE』と同じく、その設定が、何十年と全国の同人雑誌を読んで、真の文学とは何かと考えをめぐらせている自分にとっては、実に親しみの持てるテーマなのであった。

つまりブロードウェイ進出を夢見ながら、フィラデルフィアの場末のイースト・イースタン劇場で、トライアウト公演に甘んじている若く貧しいミュージシャンたちの、日常と希望を描いているのだ。それは、あたかも、文学同人雑誌で身銭をはたいて、小説を書き続けて我らの仲間と似ている。

巡業という地方での修行が、こんなにも明るいのは、大劇場での公演という夢と、その質において、同儕であるという信念のためだ。

『シング・シング・シング』で始まるステージ上の活気は、最後まで失われることはない。

もちろんデューク・エリントンの『スウィングしなけりや意味がない』を思い浮べる観客の期待は、裏切られることがない。

芸術監督兼主演の永見隆幸は恰幅も良いし、声量もあって抜群。ややスローな動きも味がある。しかし、今回はジョニー役の塚本伸彦がフル出演で、舞台の推進力となっていて、カンカンも踊る10人の女性ダンサーズも、可憐なタップを披露してくれる6人のキッズ・ダンサーズも快調だったし、(演出、振付は桜井ゆう子)客席も使った出演者の配置も適切であった。そして何よりもオーケストラの情熱的な演奏ぶり、その劇場を満たす波濤の如きサウンドにはしびれた。

ジャズとミュージカルというカテゴリーの差異に驚く者は、誰もいないし、むしろストーリーを内包しているジャズの方が自然に思えてくる。「努力をひけらかさないダンディズム」とは、当公演のパンフレットに見つけた一語だが、まさにそれを具現化した成功作であった。

少数精鋭の達成するロマンとも、お道楽ステージの極致とも考えられるが、向日性の強い在り方には共感を覚えざるを得ない。

次回がたのしみだ。

永見隆幸 & MAC公演 ミュージカル評『清水信 時評集』より

永見隆幸とメリー・アーティスト・カンパニー

造形作家 焼物作家 内田 鋼一

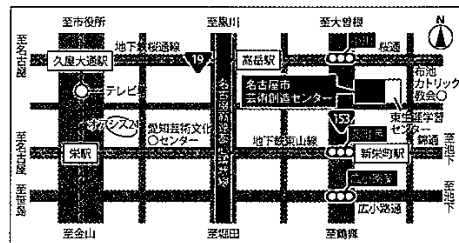
私が、永見隆幸氏率いるメリー・アーティスト・カンパニーの舞台に触れ、感じたことは、各自それぞれが表現者、アーティストであり、また、ひとりひとりが職人の技、腕を持ったプロフェッショナルの集団であるということだ。

そして、そういう自己を持ったプロをまとめ、東ね、最終的にエンターテインメント性を持ったひとつの芸術にまで昇華させる事の凄さに驚いた。

内田鋼一『共通言語』より



撮影：テス大阪(田中 聡)



名古屋市東区葵1-3-27 (052)931-1811
地下鉄新栄町駅下車1番出口を北へ徒歩約3分